

[主催] 熊本大学

[共催] 国立阿蘇青少年交流の家

[後援] 熊本県教育委員会

[期日] 令和3年7月27日(火)～7月28日(水)

[活動場所] 国立阿蘇青少年交流の家

[参加者] 小学校・中学校・高等学校の教員13名

[講師] 中川 保敬 氏(元熊本大学教授)
秋山 洋 氏(国立阿蘇青少年交流の家)
有木園 和志 氏(国立阿蘇青少年交流の家)
佐藤 倫子 氏(国立阿蘇青少年交流の家)

[担当職員] 2名

1. 趣旨

集団における体験活動の教育的意義や必要性について理解し、集団宿泊学習を実施する際のプログラム立案や安全管理、指導上の留意点についての知識・理解の向上を図り、学級経営や生徒指導に生かせるようにする。

2. 目標

発達段階に応じた体験活動の必要性を知るとともに、アイスブレイクの手法や野外調理を通して、指導技術や安全管理、集団宿泊学習における指導方法を習得する。

また、オリエンテーリングの実際について体験し、自然体験活動の効果や指導上の留意点、企画・立案及び安全管理の実際について学ぶ。

3. 事業展開

(1) 研修プログラム

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
7月27日(火)			オリエンテーション受付	【講義】 『教育課程と体験活動の関連性』 [元熊本大学教授]			昼食		【実習】 『自然体験活動と仲間づくり』 [有木園 和志]		【実習】 『野外調理の実際』 [有木園 和志]	入所式		入浴・自由時間 ※希望者には「星空観察」			就寝
7月28日(水)		起床	朝食 片づけ 退所点検	【実習】 『オリエンテーリングの実際』 [佐藤 倫子]			昼食		【講義・演習】 『集団宿泊学習の計画・立案と安全管理』 [秋山 洋]			認定試験	解散				

(2) 活動の様子



【自然体験活動と仲間づくり】



【野外調理の実際】



【オリエンテーリングの実際】



【集団宿泊学習の計画・立案と安全管理】

4. 成果と課題

(1) 成果

- 事後アンケートの結果から、「これまで体験活動の意義を深く考えずに行っていたが、『何のために、どんな活動を仕組むのか』という意識をもって計画を立てることの重要性を再認識することができた」「実際に活動場所を歩くことで、『ここは危ない』『こんなところに気を付けてほしい』という視点で、安全面に配慮することの大切さを感じることができた」「どうしても行事をこなすことに一生懸命だったが、理論を学び指導に取り組むことの大切さを実感した」「レクリエーションでは、『名前を呼び合うことで恥ずかしいという気持ちを乗り越える』という段階を踏んだアイスブレイクの流れが参考になった。また、何を身に付けさせたいのかという目的意識をはっきりさせることが大切だと感じた。」等の感想があった。本講習のねらいが達成できたことがわかる。

(2) 課題

- 「オリエンテーリングは高校の生徒を対象にした場合、ポイントを探すだけでなく、ポイントにもう一工夫仕組めばよいと感じた」「実際に自分が体験してみて、指導の難しさを再認識することができた」等の感想があり、活動がマンネリ化しないように、もう一工夫できるところは今後に向けて手を入れ改善していかなければならない。